

授業科目	*栄養治療学Ⅱ					実務家教員担当科目	○
単位	2	履修	必修	開講年次	3	開講時期	後期
担当教員	渡邊 和美						
授業概要	<p>医療機関に従事する管理栄養士は、栄養サポートチームの一員として栄養管理を担う。適切な栄養管理は、治療の促進、合併症発現の抑制、入院期間の短縮、ひいては、医療費の削減に繋がることになり、重要な業務といえる。</p> <p>本科目では、実務家教員として、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理について解説する。学生は各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目標とする。各疾患における栄養食事療法の意義と目的、栄養アセスメント法、栄養ケア計画の作成、栄養ケア実施後のモニタリング法ならびに栄養ケア・マネジメントの評価法について栄養ケアプロセスの技法を用いて説明を行う。医療・介護制度やチーム医療における管理栄養士の役割について理解することで、国民の健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識し、管理栄養士としての資質を身につけることを目標とする。</p>						
授業形態	対面授業			授業方法			

学生が達成すべき行動目標

標準的レベル	1. 各疾患の成因・病態・治療法を理解し、治療のための具体的な栄養管理方法を説明できる。 (DP1-2, DP2-1, DP3-2)
	2. 各疾患の栄養ケア計画を作成し、栄養ケア実施後のモニタリング法、栄養ケアの評価法を説明できる。(DP2-1, DP2-2)
	3. 各疾患の治療のための栄養管理方法として、具体的な調理のポイントを説明できる。(DP1-2)
	4. 各疾患の栄養管理を理解したうえで、個人対応できる。(DP1-2, DP2-1)
	5. 薬剤と栄養・食物との相互作用を説明できる。(DP1-2, DP2-1, DP3-2)
	6. 医療における栄養管理の意義、管理栄養士の役割を述べることができる。(DP1-2, DP2-1, DP3-2)
理想的レベル	標準的レベル1~6の全てを達成したうえで、知識に関しては、より詳細かつ丁寧に説明できる。さらに、修得した知識を応用して、さまざまな疾患の栄養管理方法を具体的に提示できる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合(数値)	備考
試験	80%	
小テスト	20%	食品交換表について
レポート	0	
発表(口頭、プレゼンテーション)	0	
レポート外の提出物	0	
その他	0	

カリキュラムマップ(該当DP)・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	NT21803J
学習課題(予習・復習)										1回の目安時間(時間)	

予習：該当部分の把握をする。

復習：該当部分を理解する。

4

授業計画

第1回	テーマ：オリエンテーション その履修方法や授業の目的、達成の目安、評価の内容と方法など授業の概要について説明する。
第2回	テーマ：NCP (Nutrition Care Process) スクリーニング、アセスメント、診断、介入計画、モニタリング等の記録方法について解説する。 参照ページ：57-87
第3回	テーマ：傷病者・要介護者および障がい者、医療制度、内分泌疾患 管理栄養士の役割、管理栄養士・栄養士に関する診療報酬等について解説する。 参照ページ：31-47
第4回	テーマ：薬物と栄養・食事の相互作用 栄養・食品が医薬品に及ぼす食物の影響等について解説する。 参照ページ：48-56,
第5回	テーマ：精神・神経疾患、小テスト 摂食障害、パーキンソン病等について解説する。小テストを講義内で実施する。 参照ページ：252-260
第6回	テーマ：栄養投与方法、クリティカルケア 栄養投与法の選択、経口栄養法、経管栄養法、静脈栄養法、外傷・熱傷等の栄養治療等について解説する。 参照ページ：88-102 、 245-251
第7回	テーマ：代謝・内分泌系疾患 メタボリックシンドローム、肥満症、糖尿病、脂質異常症等の栄養治療について解説する。 参照ページ：118-141
第8回	テーマ：消化器系疾患、糖尿病食品交換表の小テスト 歯周病、口内炎、胃食道逆流症、消化性潰瘍、炎症性腸疾患、肝疾患、脾炎等の栄養治療について解説する。 参照ページ：142-172
第9回	テーマ：循環器系疾患 高血圧、動脈硬化、脳血管障害、虚血性心疾患等の栄養治療について解説する。 参照ページ：173-191、
第10回	テーマ：腎・尿路系疾患 急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、慢性腎臓病等の栄養治療について解説する。 参照ページ：192-223
第11回	テーマ：周術期、急性ストレス状態、妊娠期疾患、先天性代謝異常 周術期、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群、糖原病等の栄養治療について解説する。 参照ページ：325-331、345-351
第12回	テーマ：乳幼児期、小児期疾患、高齢期疾患 小児糖尿病、小児腎臓病、老年症候群等の栄養治療について解説する。 参照ページ：332-344、355-368
第13回	テーマ：免疫・アレルギー疾患、膠原病・自己免疫疾患、栄養管理体制 食物アレルギー、全身性エリテマトーデス等の栄養治療について、また医療現場での新栄養管理体制

	制について解説する。 参照ページ : 288-302
第 14 回	テーマ : 感染症、摂食・嚥下障害 感染症時の栄養代謝動態、咀嚼・嚥下障害等の栄養治療について解説する。 参照ページ : 303-316
第 15 回	テーマ : 栄養治療学Ⅱ総括、定期試験
テキスト	塚原丘美編 : 臨床栄養学 Nutrition Care Process に沿った傷病者の栄養管理 (医歯薬出版株式会社) ISBN:978-4-263-72034-9
参考図書・教材/データベース・雑誌等の紹介	必要に応じて、資料を配付する。
課題に対するフィードバックの方法	小テストは評価して返却する。
学生へのメッセージ・コメント	「生化学」「疾病診断治療学」「病理学」「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」で修得した知識を必要とする。特に疾患の成因・病態および治療法 (「人体構造機能と疾病の成り立ち」等) に関する知識を必要とします。 栄養治療学はこれまで学んできた「生化学」「疾病診断治療学」「病理学」「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」等を基に、管理栄養士として必要な実践的な栄養ケアの知識を学ぶものです。これらの科目を復習するとともに、シラバスを参照し、毎回の講義内容について、予習して授業に臨んでください。

